

2026年4月26日

# 週報

「招詞」

待ち望め 主を。  
雄々しくあれ。



心を強くせよ。  
待ち望め 主を。

詩篇 二十七編 十四節

## 那須キリスト教会

〒329-3222

栃木県那須郡那須町大字寺子丙 1-158

Tel 0287-72-5455



ホームページ : <https://nasu-kirisuto.kyoukai.jp>  
YouTubeでの礼拝ライブ配信は、下記で検索してください  
2026年4月26日 那須キリスト教会 主日礼拝

4月26日

# 主日礼拝

司会・奏楽：塚原 恵子姉

前 奏

招 詞 詩篇 27 編 14 節 (旧 P958)

頌 栄 2 編 1 (1、2 節)

主の祈り

交 読 文 詩編 第 27 篇  
(「新聖歌」巻末交読文による)

祈 禱 塚原 恵子姉

讃 美 歌 オレンジファイ8 「シャイン、ジーザス、シャイン」

聖 書 詩編 27 篇 (旧 P957)

説 教 「ただ一つの願い」 安食 弘幸 牧師  
(ビデオ・メッセージ) (峰町キリスト教会)

讃 美 歌 2 編 167 (1、2 節)

使徒信条

献 金 547

頌 栄 539

終 禱

後 奏

## 【本日の聖書 (新改訳 2017)】

詩編 27 篇 (旧 957)

サムエル記 第二 21 章 15 節 (旧 581)

## 【報告】

- 本日は、公告にある通り、2026年度第9回教会総会を行います。この一年もイエスさまが共に歩んでくださり、豊かな恵みを与えて下さったことを思い起こし、感謝いたします。また今年度の目標を確認し、神さまの導きをさらに祈りつつ心一つにして歩みます。
- 本日のひつじかいは、「互いに祈る恵みのひととき」です。
- 本日の愛餐会は、ピラフとポトフです。
- 礼拝は、YouTube でライブ配信をしております。どうぞご覧ください。

**【公告】** 本日、2026年度第9回教会総会を行います  
場所：那須キリスト教会 礼拝堂  
時間：礼拝後 午後2時15分

## 【次週の予告】

5/3日(日) 主日礼拝

説教題：「祈りの手をあげよう」

聖書箇所：詩編28篇

説教者：安食 弘幸 牧師（峰町キリスト教会）  
(ビデオメッセージ)

讃美歌：2編1(1,2). 2編167(1,2). 461(1,2). 539.

## ようこそ那須キリスト教会へ！

〔はじめての方へ〕

- ・よくおいでくださいました。神様と共に喜んで歓迎いたします。
- ・聖書（新改訳2017）、讃美歌をお持ちでない方は、教会備え付けのものをお使ください。
- ・礼拝順序など、となりの方に遠慮なくお聞きください。
- ・礼拝献金は、感謝の“しるし”として献げるものです。額は自由です。受付にある封筒をご利用ください。
- ・ご相談のある方は、担当の者が承ります。お声をかけてください。
- ・集会は下記の通りです。

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| ★ 「礼拝」(日)       | 午前10:30~12:00 |
| ★ 「聖書の夕べ」(火)    | 現在お休み中です。     |
| ★ 「やさしい聖書の話」(水) | 現在お休み中です。     |

# 泉のほとりぞ

## 「思いを一つにして」

コリントの信徒への手紙一

一章一十七節

吉村和雄 キリスト品川教会名誉牧師

「聖書日課366編

主の恵み、日々新たに」より

コリントの信徒への手紙は、今からおよそ二千年前のギリシヤのコリントにいた人々に宛てられたものです。わたしたちとは時代も民族も違う人々です。しかし同じ人間が集まっているという点において、そこに起こる問題もまた同じものがあるのです。コリント教会の問題は、すなわちわたしたちの教会の問題です。

その問題とは、指導者を巡る問題でありました。パウロがコリントを去ってから、幾人かの有力な指導者がその教会を訪れ、指導をしました。それが教会に分裂を引き起こしたのです。「わたしはパウロ先生の弟子」という者がいると、「いやいやパウロ先生の説教を聞いたか、聖書の知識をとつても、語る言葉をとつてもパウロ先生より数段上だ」という人が出る。あるいは「何を言うか、ペトロ先生が一番だ。何と言つても主イエスと実際に生活をされた方だから、話の重みが違う」という人が出る。それが教会に分裂をもたらしたのです。

神さまは教会を指導する者に、必要な賜物をお与えになります。しかしその内容は人によって異なるのです。教会がそれぞれの賜物を感謝して受けることができたなら、それは教会を豊かにするものなのです。しかし実際は逆に賜物の多様性が教会を崩すことになっていったのです。

誰でも指導的な立場について見ればわかります。「わたしは誰々先生のもの」と言つてそれを誇りにする人は、その指導者のことを考えているのではなく、自分のことを考えているのだということ。指導者が賞讃されていい気になっていると、あ

とで必ずひどい目にあいます。だから一番大きな問題は、教会が分裂することではなくて、教会員が本当にはキリストを理解していないことなのです。だからこそ信じていると言いながら自分のことに終始するのです。

パウロがここでキリストを指し示すことに全力を注ぐのはそのためです。自分はパウロ先生に洗礼を授けていただいた、というように人を人々が誇りにしないように、「自分が遣わされたのは洗礼を授けるためではなく福音を伝えるため」だということまで言う。十字架で死んでくださった、その主イエスの死に結びつくのが洗礼です。もっともキリストに近くあるそこにおいて、なお自分を主張しようとする思いを、パウロは厳しく退けるのです。キリスト

の十字架を無にしないためです。教会の一致は、人間の合意によって生まれるものではなく、それぞれがキリストの恵みに圧倒されて自分のことを言い立てる言葉を失ったところに生まれてくるものであることを、パウロは知っていたのです。

